

【投信調査室コラム】  
日本版ISAの道 その2

ISA口座と特定口座(一般口座)をセットにした積立投資を考える。エマージング債やグローバルREIT、ハイイールド債、エマージング株などが注目(DC/確定拠出年金にも活用可能)。

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

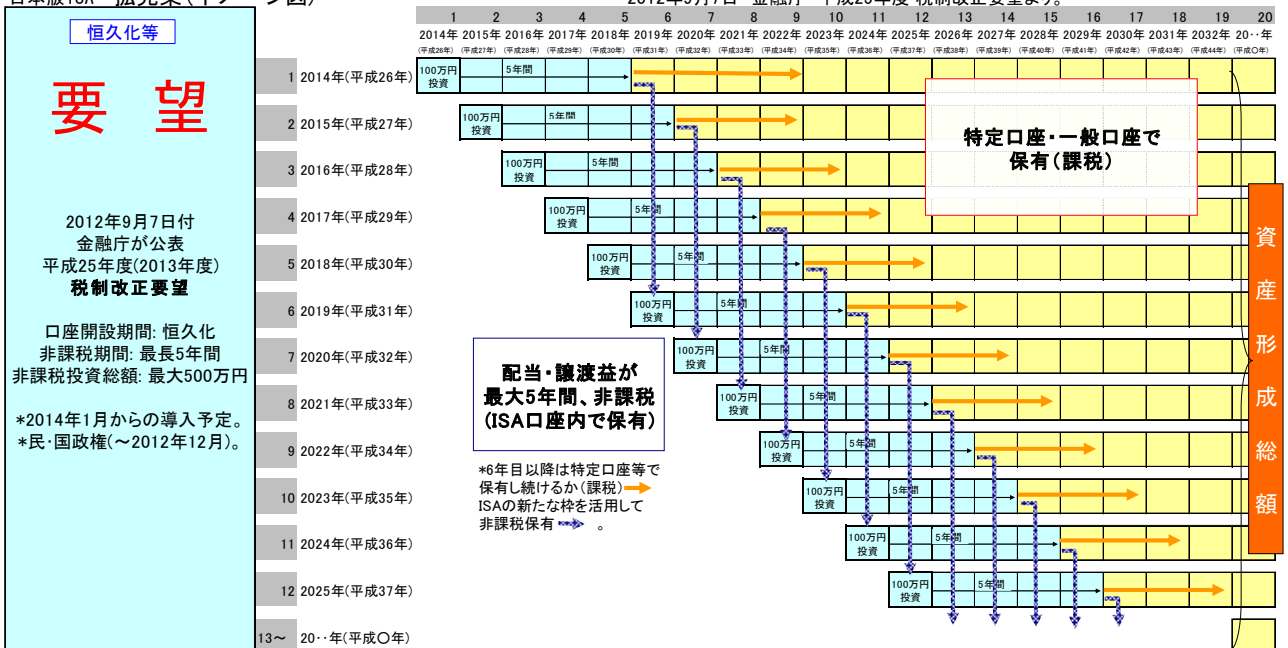
ISAは積立投資に通じる

2014年(平成26年)1月から導入される予定の「日本版ISA(非課税口座内の少額上場株式等に係る配当所得及び譲渡所得等の非課税措置等)」は非課税投資額が1年間(12月31日まで)に100万円までとなっている。しかしISAの本場英国では年11,280英ポンドまで可能となっている(\*約160万円、2012-2013年度、株式型ISA)。なぜ日本はキリの良い数字なのに、英国ではキリの良くない数字となっているか。それは「イギリスISAの年間拠出額は12で割れる金額に設定されている。これは毎月積立を意識しているから」(2013年1月21日付金融財政事情)、「12で割り切れる額にする意味は毎月、一定額を投資する利用者にとって使いやすい制度にするため」(2012年12月24日付ファンド情報)とある通りである。日本は「100万÷12=83,333.33333...」、英国は「11,280÷12=940」である。

「日本の100万円」を毎年初めに一括で投資するのは非課税枠の有効活用ではあるが、それが難しい人も少なくない。2013年2月6日付日本経済新聞の「日本版ISAをどう活用するか。」で「毎月2万、3万円を銀行口座から自動的に投信に積み立てるサービスを活用するのが一案」と言う意見もあった通りである。

また、1年あたりの非課税投資総額、最大500万円を一気に投資したい人も年100万円が上限となり、結果的に「毎年、積み立てる」となる。この様に、ISAは一定額を定期的に購入していく積立投資(ドル平均法)に通じるものがある。日本の金融庁が「平成25年度税制改正要望(2012年9月7日公表)」で「ISA恒久化」のイメージとして積立を意識した図(下記テーブル①)を掲載していたのも、その為と思われる。

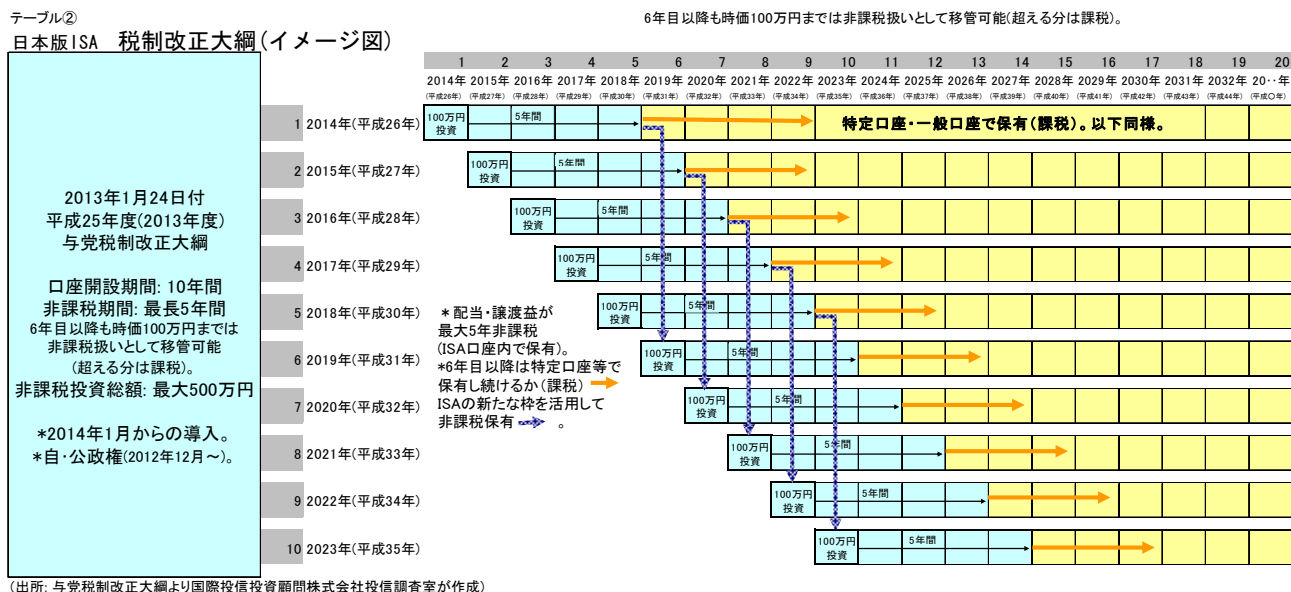
テーブル①  
日本版ISA 拡充案(イメージ図)



(出所: 税制改正要望等より国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

ただ、今回の税制改正では前頁イメージ図にある口座開設期間の恒久化は見送られ、ISAの口座開設期間は10年間となっている。そのため、ISAの非課税口座だけで積み立てするならば、積立期間は最長10年となる(下記テーブル②)。

日本版ISA導入直後にISA口座で投資を開始した場合、非課税投資総額は1年目に最大100万円、2年目に最大200万円、5年目に最大500万円となり、10年目まで最大500万円が継続し、11年目に最大400万円、12年目に最大300万円、そして14年目の最大100万円を最後にISAは終わる事となる。



## ISA口座と特定口座(一般口座)をセットにした積立

ISAだけを活用、毎年ロールオーバー(後述\*)した場合、当初5年間は積立、その後5年間は積み立てしない期間となり、その後はISA口座の非課税期間終了毎に、積立の逆つまり払出・回収を行う事となる。こうしたパターンの資産形成もあって良いと思われるが、必ずしもそうではないだろうし、さらに、ISAの投資対象の市場価格が変動する場合、一括投資とも積立投資ともいいにくいこのパターンは、リターンとリスクの試算や検証が難しいものとなる。その意味から、ISA口座と特定口座(一般口座)をセットにした投資と考えるのがわかりやすいと思われる。

\*ロールオーバーとは、非課税期間の5年が経過後、翌年新たに設定される非課税管理勘定への移管の事で時価100万円まで可能。平成25年度税制改正大綱で可能となったものだが、税制改正大綱については【投信調査室コラム】日本版ISAの道 その1を参照)。また、もし非課税期間終了時に時価100万円を上回る利益がでた時には超過分は課税口座へ(もしくは売却)。損失がでたときは翌年の非課税枠にて損失分まで新たに投資することが可能。

それに、そもそも日本版ISAは、家計の安定的な資産形成を支援する仕組みのひとつであり、老後の備えや教育資金などを想定すれば、ISAはDC/確定拠出年金などと同様に、非課税投資総額500万円にとどまらない資産形成が検討されよう。金融庁の平成25年度税制改正要望に出ていた「国民の資産形成を支援する観点からの金融証券税制の抜本的見直し 日本版ISAの恒久化等」とある通りである。また今後とも金融庁の恒久化要望は続くと思われるし、さらにISAの本場英国でも1999年導入当初こそ2009年までとされていたのが7年後に恒久化されている。

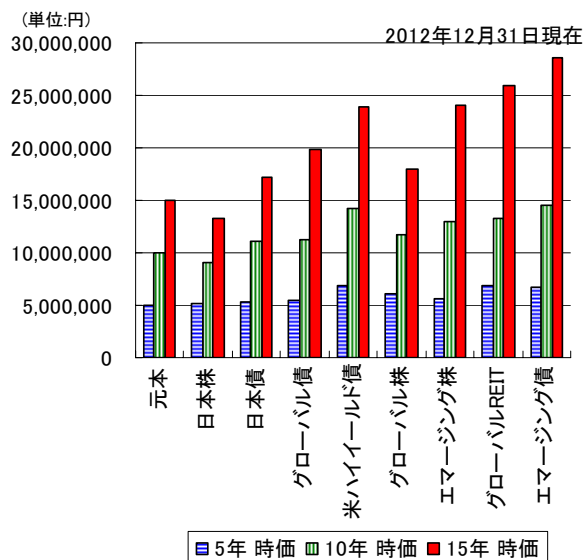
## 積立投資の検証結果

そこで、今回は、恒久化を前提に、年100万円の非課税投資を行い、5年経過後に「ロールオーバー」せず、ISA口座から特定口座(または一般口座)への移管・振替をする前提で検証する。その為、ISA口座の最大非課税投資総額500万円を超え、口座開設期間10年を超える場合もある。また、ISAは年初に投資するのが効果的とされるが、文頭で述べた通り、平均的に毎月末83,333円ずつ購入したケースを試算している(\*83,333円というのは年間の投資元本100万円を12で割った金額)。投資対象は、投信の中で主なベンチマークと思われるものを使い、5年・10年・15年で検証している。

結果がグラフ①の通りで、左側のグラフは2012年12月31日時点の時価、右側のグラフは損益である(\*手数料等は無視)。見てわかる通り、エマージング債が総じて利益が最も大きく、グローバルREIT、米ハイイールド債及びエマージング株がそれに次ぐ(\*どれも為替ヘッジなし)。グローバル債や日本債は利益こそ小さいが、安定的な感じである。

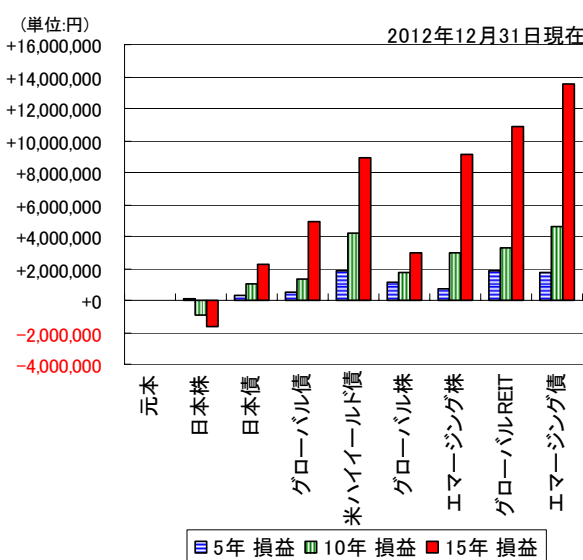
グラフ①

2012年12月31日 まで毎月末に83,333円ずつ(1年/計100万円) 購入した時の、現在の **時価** \*左から投資期間5年・10年・15年。



(出所:ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

2012年12月31日 まで毎月末に83,333円ずつ(1年/計100万円) 購入した時の、現在の **損益** \*左から投資期間5年・10年・15年。



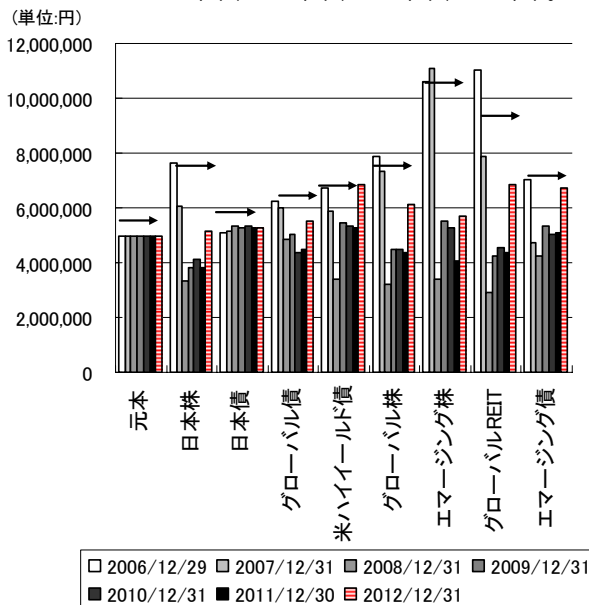
(出所:ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

積立投資では、「出口」が鍵とも言われる。「積立投資は、いつやめるのがいいのかまでを真剣に考える人は少ない。だが、肝心なのは『終わり』のタイミング」(2012年4月15日付日経ヴェリタス)の通りで、「評価時点の市場次第」となる可能性がある(\*その他、積立投資は積立期間内に市場価額が上昇・下落して平均投資単価が時価を上回る場合もある)。その「出口」を考慮すべく、2012年12月31日現在だけでなく、2011年末、2010年末、2009年末、2008年末、2007年末、2006年末と言う時点での検証もした。

まず5年からであり、左側のグラフが時価で右側のグラフが損益を示すのは先と同じである(グラフ②参照)。2006年と2007年はエマージング株とグローバルREITがとても良かったが、リーマン・ショック(2008年9月15日以降)後、損失となっている。総じて損も益もある感じである。

グラフ②

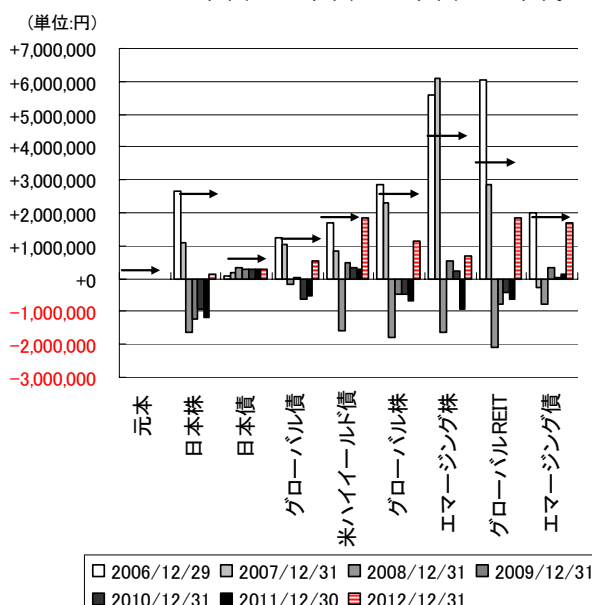
毎月末に83,333円ずつ(1年/計100万円)5年間購入した時の  
**時価** \*左から評価時点 2006年末、2007年末、2008年末、  
2009年末、2010年末、2011年末、2012年末。



(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

投資期間 5年

毎月末に83,333円ずつ(1年/計100万円)5年間購入した時の  
**損益** \*左から評価時点 2006年末、2007年末、2008年末、  
2009年末、2010年末、2011年末、2012年末。

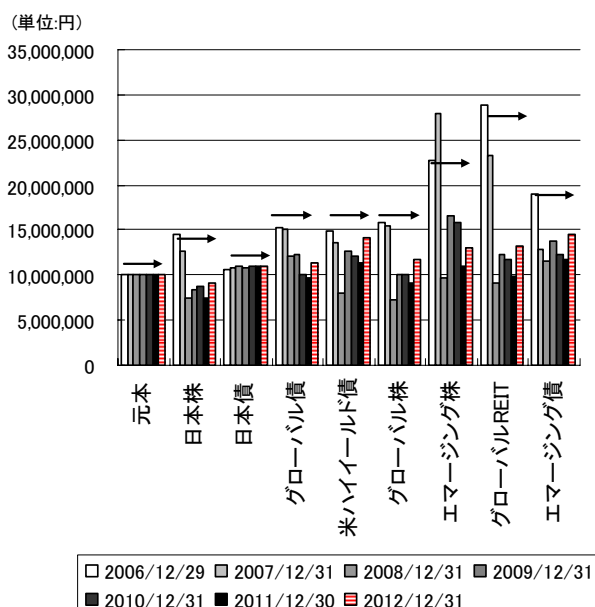


(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

次いで10年である(グラフ③参照)。5年に比べ全般的に利益が増えてきた。やはり長期投資は重要である。

グラフ③

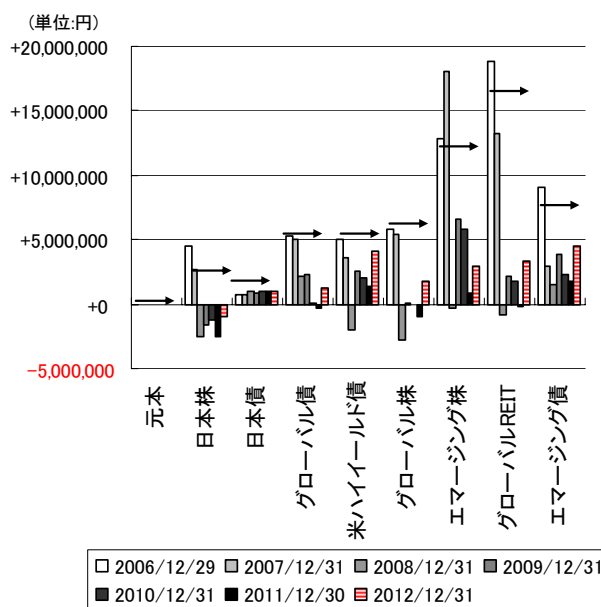
毎月末に83,333円ずつ(1年/計100万円)10年間購入した時の  
**時価** \*左から評価時点 2006年末、2007年末、2008年末、  
2009年末、2010年末、2011年末、2012年末。



(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

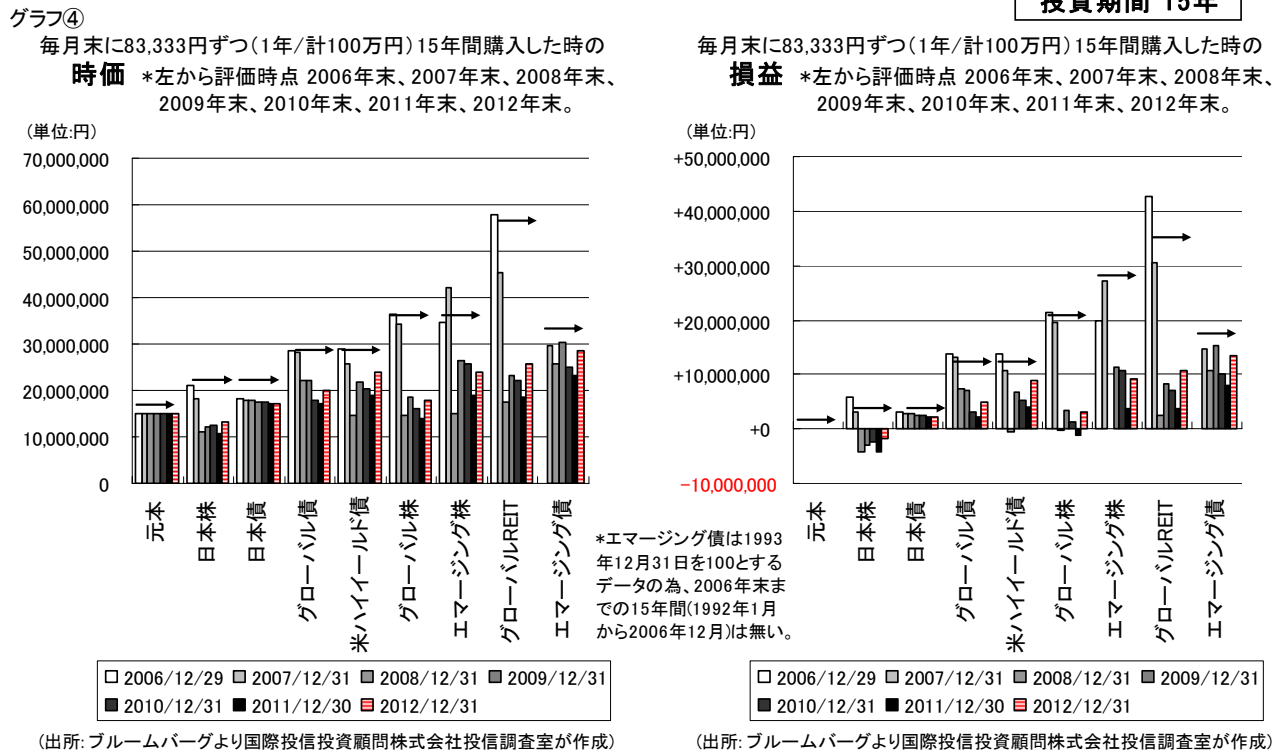
投資期間 10年

毎月末に83,333円ずつ(1年/計100万円)10年間購入した時の  
**損益** \*左から評価時点 2006年末、2007年末、2008年末、  
2009年末、2010年末、2011年末、2012年末。



(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

そして15年である(グラフ④参照)。先述した5・10・15年の2012年12月31日時点の一覧グラフで示した通り、エマージング債が最も利益で(\*それも安定的な利益で)、グローバルREIT、エマージング株及び米ハイイールド債が次ぐ。グローバル債や日本債も利益こそ小さいが、やはり安定的な感じである。



以上から、エマージング債、グローバルREIT、エマージング株、米ハイイールド債、が相対的に良好な結果となった。これら4資産をリスクに応じ単体で投資をしてもいいし(\*通常、投信なので銘柄は十分に分散されている)、4資産を同時に分散投資しても良さそうだ。もちろん、リスクを抑えるべく、日本債やグローバル債も良い選択肢と思われる。このあたりは、投資家のリスク許容度次第である。

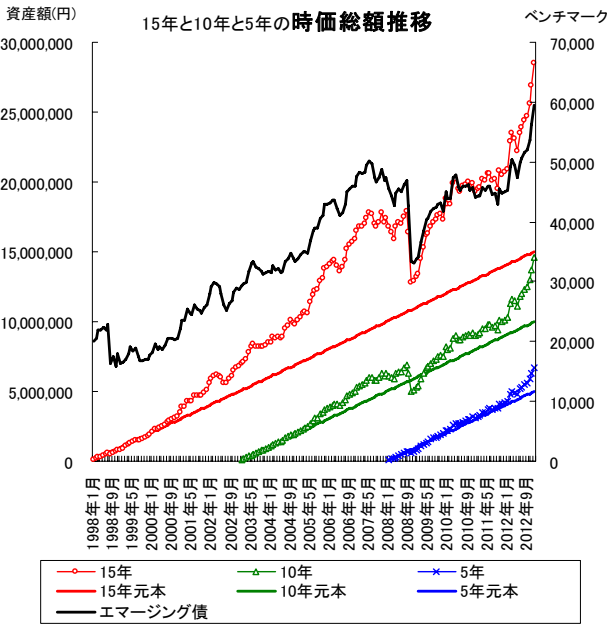
このような検証結果であるが、日本版ISA口座だけでなく、2012年1月から従業員の上乗せ拠出が可能となった確定拠出年金(DC)にも応用出来る。日本版ISA導入を前にして、既に導入されているDC/確定拠出年金などにおいても、ぜひ参考にしてほしいものである。そして、税制改正要望(2013年度/平成25年度分)が示している「国民の資産形成支援」を期待してやまない。

最後に、参考まで直近2012年12月末までの10年と15年積立で相対的に良好な結果となったエマージング債、米ハイイールド債、グローバルREITと、エマージング株について、5年と10年と15年の積立検証結果をグラフで示す(左側が時価総額で、右側が損益推移。2012年末まで毎月末に83,333円ずつ購入した場合)。

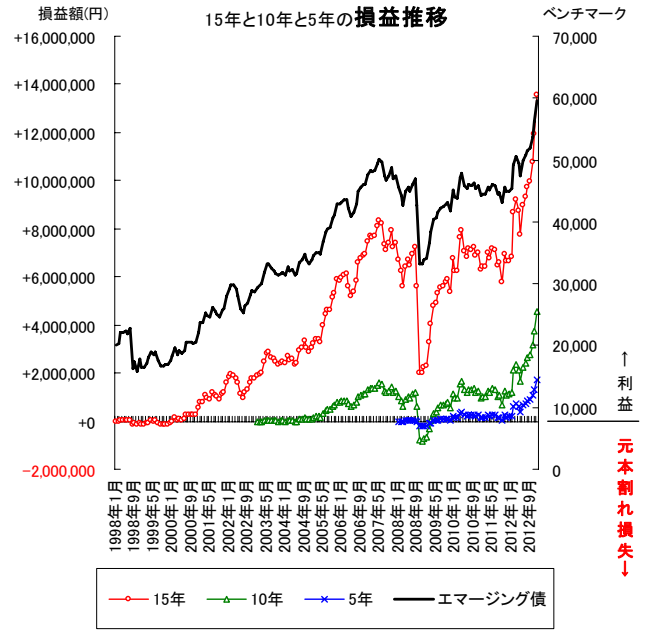


エマージング債

エマージング債



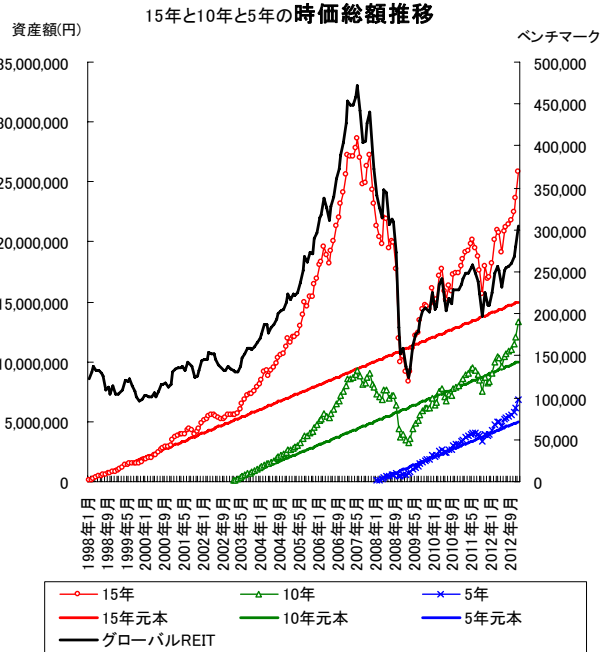
(出所:ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)



(出所:ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

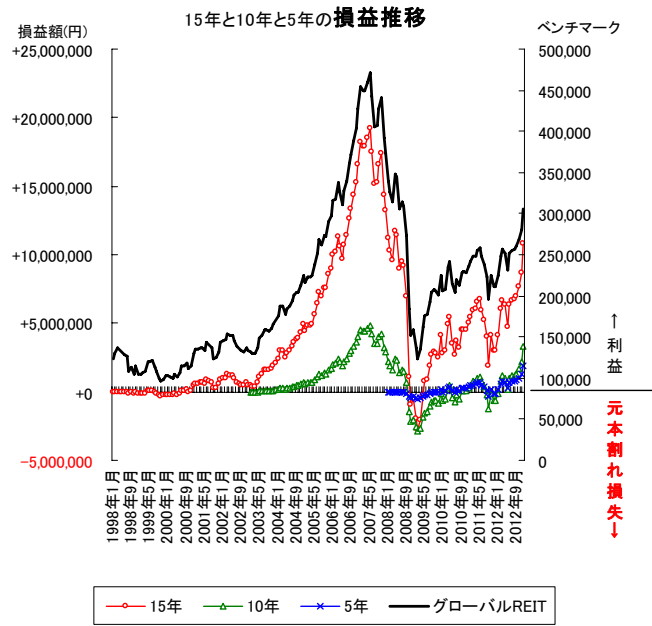
グローバルREIT

グローバルREIT



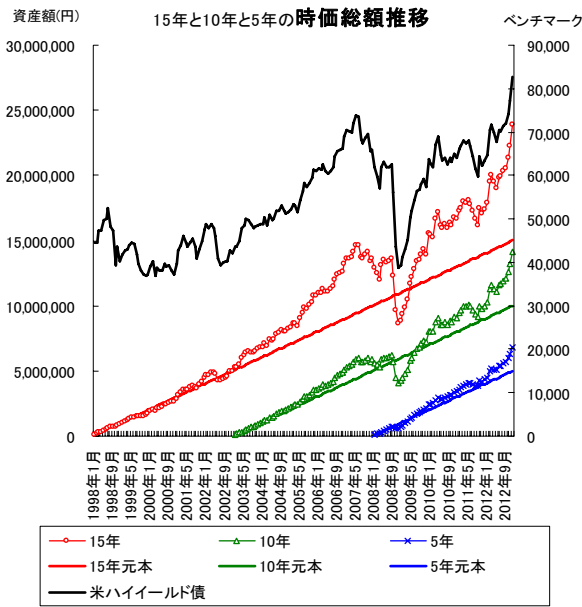
(出所:ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

(※ベンチマークとはブルームバーグで代表的指数と思われるものを使用している。)

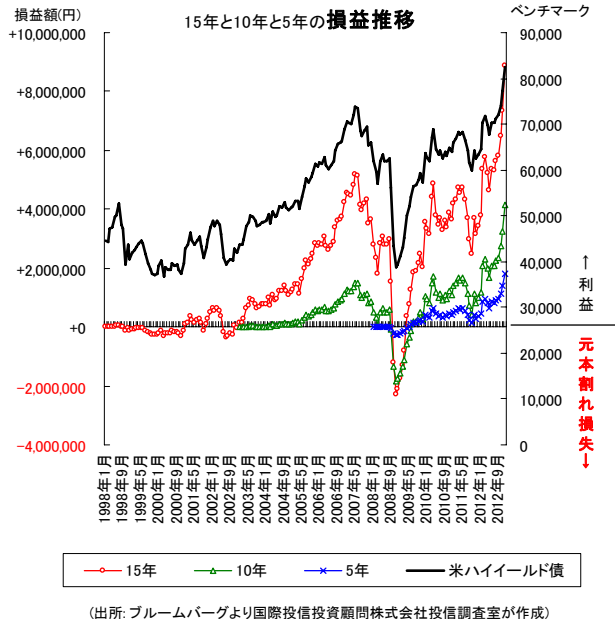


(出所:ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

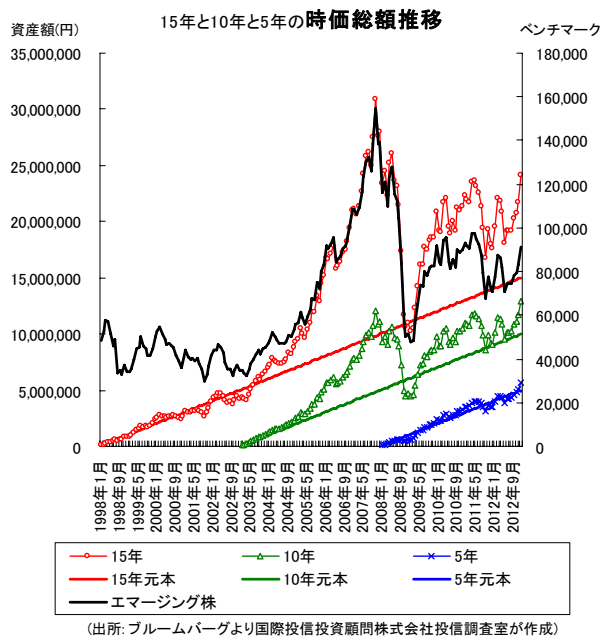
米ハイイールド債



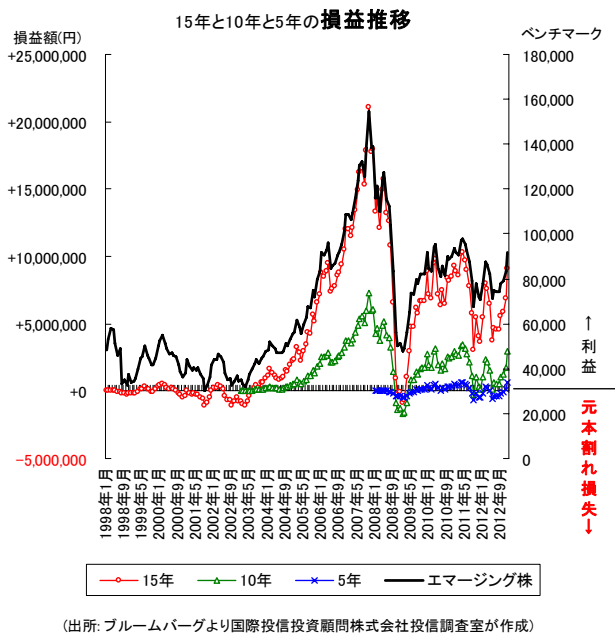
米ハイイールド債



エマージング株



エマージング株



以上  
 (投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISAに関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
  - 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
  - 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
  - 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。
- また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。